



「南天」 東部町美術会会員・北沢元一氏 作品より

文化協会のますますの

発展をねがう

晩秋の一日、前会長丸山光夫さんと前副会長小林清枝さんをお訪ねして思い出や近況をお聞きしました。

前会長

丸山光夫さん



多くの出会いが 貴重な体験となる

私の在任中、事務局が中央公民館から文化会館へ移行して非常に不便な思いをしました。そこで文化会館係（教育課）を生涯学習課に籍替えしてもらうために関係の方面に働きかけ、平成四年に実現し、以後活動がスムーズにいくようになりました。

会長として大勢の人と語り合い、大勢の人の作品を見て親交を深めることができたのは、私にとって貴重な体験となりました。

生涯学習に邁進する



え、大変喜ばしいことです。

もう一つは、なんといっても文化会館の建設です。会員の活動や発表の場ができて、みなさんの心の拠りどころにもなり、会員数が増加するのに役立った感じしております。

これからの文化協会に 期待すること

私としては、芸能発表会と展示発表会を一緒にして両方を同時に楽しむことができれば、大勢のみなさんに見てもらえるので、そんな催し物をやってほしいと思っております。

文化協会は、町生涯学習の中核となつて益々発展してほしいと願っています。

前副会長

小林清枝さん

文化会館の建設なる

私が副会長に選任された昭和六十年当時に比べると趣味を持つ方が増え、いまは会員が二千名を超

東部町に文化協会あり

現在、華道の指導をする傍ら、パン粘土のグループに入り、パン粘土でお花をつくって楽しんでおります。（お宅のあちらこちらに、ミヤコワスレや胡蝶蘭等の素敵な作品が置かれていました）

最近、町では生涯教育に力を入れ、色々学ぶ人が多くなり、それに伴って文化協会の役割も重要になってきました。役員・会員の方々のご活躍により益々発展し、「東部町に文化協会あり」と、そして近隣市町村にまでも認められますよう頑張っていたきたいと思います。



小布施町文化協会の役員を迎えて 活発な意見交換行わる

秋晴れの十月二十一日、小布施町文化協会役員二十名を迎えて町文化協会役員との交流会が行われました。北齋・鴻山等の美術館を中心に、活発な文化活動を行っている小布施の方々の来訪に少々緊張気味でした。

はじめに事務局員が、会館内の各施設を案内しました。舞台の緞帳には溜息がもれ、女性の方は手で触っていました。

その後、会議室で話し合いが持たれました。東部の関会長の「私達は先人の遺産を受けついで将来の文化に繋いでいく責任がある」という挨拶に始まり、両町の文化活動について話し合いました。

経費が掛かり過ぎる事だそう。当町では生涯学習課があり、公民館や文化会館を拠点に学びの場や発表の場を容易に確保でき、それが会員数の増加につながっています。この点に小布施の皆さんは強い関心を示され、具体的な質問があいつぎました。しかし、当町も遠隔地や交通弱者の方々には、これら施設を利用する事ができない不便さもあります。

限られた時間でしたが、会館の利用状況、オペレーター制度等の説明もあり、小布施のみなさんに大いに参考になったようで、有益な交流会となりました。この後、小布施のみなさんは海野宿に寄って帰路につきました。

外にむけよう」という事で、例えば小布施町在住の外国人との交流会を開いたり、他町村に視察に出掛け視野を広める様努めているそうです。又、悩みは高令化に伴う会員数の減少と、学習の成果を発表する場がない事、場を作るには



第12回生涯学習総合文化フェスティバル

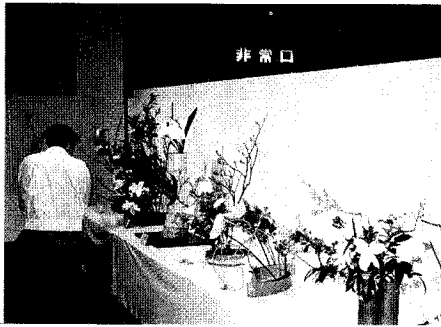
11月3日～5日 中央公民館を会場に

今年度より新設されたフラワーアレンジメントを含む二十二部門から一两点を越える出品があり、会場の中央公民館には所狭しと力作が並びました。

参加者・出品点数とも 年々増える傾向

このフェスティバルでは、できるだけ多くの皆さんに出品していただけるようにと一人一点の原則を設けていますが、それでも既に中央公民館では狭すぎて、部門によっては作品の大きさを制限しているところもあるほどです。

これまで以上に文化協会に加盟している皆さんが出品してきましたが、今後は、文化協会に加盟していないグループや個人の皆さんにも出品していただくようにしたい。そのためには中央公民館だけでなく文化会館も会場にして十分に展示できるようにしたいと考えています。



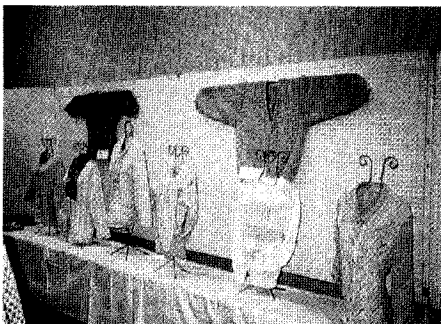
生 け 花 部 門



木 彫 部 門



文 芸 部 門



手 芸 部 門



書 道 部 門



身 障 者 コ ー ナ ー



盆 栽 部 門



レ ー ザ ー ク ラ フ ト 部 門



リ ハ ビ リ コ ー ナ ー

中央公民館のロビーと文化会館の展示室が、皆さんのご利用をお待ちしています。文化協会に加盟していただいても、グループでも個人でもかまいません。
総合文化フェスティバルの時だけでなく、いつも皆さんの作品で来観者の目を楽ませてください。

作品の展示に文化会館と 中央公民館のご利用を



ち ぎ り 絵 部 門



人 形 部 門

菊花部発足25周年記念展

菊作りはわが子を 慈しみ育てるようなもの

小学生の作品も参加

昨年秋に行われた総合文化フェスティバルに於いて、菊花部発足二十五周年記念展が盛大に行われました。

会場には、菊花部の皆さんの作品と共に、祇津小学校児童の手になる力作も多数展示され、参観の人々の目を楽しませていました。

祇津小学校では数年来、

菊花部会長・松澤房視さんの指導の下に子供たちの菊作りが行われ、大人にも負けないほどの立派な作品が生まれています。これは、町の菊作りの将来に明るい光を投げかけているようです。



今年も力作ぞろい

毎年力作を出品している福島康人さんに、菊作りについての話をお聞きしました。福島さんは、「菊作りは、わが子を育てるようなものです。早春の挿芽に始まり、一年中の仕事です。作り方には、二本、五本、七本、懸崖、だるま仕立等がありますが、葉・茎・花と三拍子揃った菊を育てるのは大変なことで、週一度の病害虫の消毒と駆除、葎草や寒冷紗による日照時間の調節などは欠かせません」とその努力を語ってくれました。

ジャズに魅せられて

TNSジャズオーケストラ

東信地区では唯一のビッグバンド「TNSジャズオーケストラ」は現在、二十四人のメンバーで毎週日曜日に、文化会館で練習を重ねています。なかでも五人の女性は、サークルの太陽的な存在です。最近、若い人たちがぞくぞくと参加してくれ、将来が楽しみなサークルでもあります。

今年には十四周年を迎え、レパートリーも二百曲ぐらいになりました。主流は、一九四〇年代のスタンダードナンバーですが、他の分野の曲も積極的にとり入れて練習に励んでいます。



この会は、十三絃の琴を弾いたり歌を歌ったりするものです。中学生から中年の者まで十一人の会員が、「音楽がでさなくても楽しむことができます」と先生に励まされながら、グループ活動（アンサンブル演奏）を楽しんでいます。

弾く喜びを胸いっぱい

邦楽部会 しゃくなげ会

この会は、十三絃の琴を弾いたり歌を歌ったりするものです。中学生から中年の者まで十一人の会員が、「音楽がでさなくても楽しむことができます」と先生に励まされながら、グループ活動（アンサンブル演奏）を楽しんでいます。

十三絃の琴による箏曲は、江戸時代、検校などにより作曲され、寺院歌謡の伴奏として使われましたが、明治維新後は一般にも開放され、伝承されてきました。宮城道雄生誕百年の今年は、かなり難しい箏曲と歌にも挑戦しています。



「エオリア」とはイタリア語で、「爽やかな風」という意味。メンバーは、リーダーの柳沢栄子さんを含めて現在九名。ほとんどが主婦ですが、一人で吹いているよりは、大勢で音を合わせながら吹く方がもっと楽しいと、上田からも五人が駆けつけてきています。町の催しなどに出演するときは二ヶ月位前から練習しますが、それぞれが自宅で練習しておいて、みんなで寄って合わせると、一度でなんとか合ってしまうという実力派ぞろいの皆さん。「かつてはフルートをやったこと

部会訪問

爽やかな風のように

フルートアンサンブル・エオリア

フルートアンサンブル・エオリア「エオリア」とはイタリア語で、「爽やかな風」という意味。メンバーは、リーダーの柳沢栄子さんを含めて現在九名。ほとんどが主婦ですが、一人で吹いているよりは、大勢で音を合わせながら吹く方がもっと楽しいと、上田からも五人が駆けつけてきています。町の催しなどに出演するときは二ヶ月位前から練習しますが、それぞれが自宅で練習しておいて、みんなで寄って合わせると、一度でなんとか合ってしまうという実力派ぞろいの皆さん。「かつてはフルートをやったこと

フルートアンサンブル・エオリア「エオリア」とはイタリア語で、「爽やかな風」という意味。メンバーは、リーダーの柳沢栄子さんを含めて現在九名。ほとんどが主婦ですが、一人で吹いているよりは、大勢で音を合わせながら吹く方がもっと楽しいと、上田からも五人が駆けつけてきています。町の催しなどに出演するときは二ヶ月位前から練習しますが、それぞれが自宅で練習しておいて、みんなで寄って合わせると、一度でなんとか合ってしまうという実力派ぞろいの皆さん。「かつてはフルートをやったこと

苦しくとも楽しんで

謡曲部会



謡曲部会には現在、五つの会があり、三十数人が活動しています。そのうちの約半数を女性が占めています。謡曲の難しさは、記号を元に分で音程を作っていくかなければならないことと、言葉の意味を理解して五七や七五のリズムに乗せて謡うことなどです。ときには難しさの余り、挫折しそうなこともありますが、お腹の底から大きい声を出すことは健康に良いと聞き、「初謡」「納め会」などの会を設けて練習に励み、みんなで発表したり聞き合ったりして活動を楽しんでいきます。



謡曲部会には現在、五つの会があり、三十数人が活動しています。そのうちの約半数を女性が占めています。謡曲の難しさは、記号を元に分で音程を作っていくかなければならないことと、言葉の意味を理解して五七や七五のリズムに乗せて謡うことなどです。ときには難しさの余り、挫折しそうなこともありますが、お腹の底から大きい声を出すことは健康に良いと聞き、「初謡」「納め会」などの会を設けて練習に励み、みんなで発表したり聞き合ったりして活動を楽しんでいきます。

玉村豊男さんからのメッセージ

ヴィラデストの ぶどう畑よりⅡ



畑仕事、原稿執筆、講演活動、テレビ出演、絵の制作と八面六臂の活動を続ける玉村さんにまたひとつ、淡路島でのレストランのプロデュースという新たな活動が加わりました。次々に新しいアイデアを生み出す玉村さんの元気の秘訣はどこにあるのでしょうか。前号に引き続き、玉村さんからのメッセージをお届けします。

東京から信州へ

ぼくはもう、信州暮らしは十三年ぐらいになります。東京にいるから最新の文化に出会うというものでもありませんね。

東京の人って大体、東京じゃないと何もできないと思いついてるし、それでつい地方の人もそう思い込まれているんですけど、それは特に根拠があつてのことではないような気がします。

それはまあ、十年、二十年前は多少はそうだったかもしれないけど、今は東京と地方の情報ギャップというのはそんなにないんじゃないですか。それこそ衛星放送は天から降ってくるわけですからね。人と会う機会ということでも、

都会の方が多いというのは確かですが、ただそれもほとんどの人はいつも決まった人とだけしか会っ

ていませんし、たくさんの方がいてもそれは単に、関係のない通りすがりの人ですから。

刺激的な 地方の暮らし

ぼくがここで暮らして出て出会う人というのは、勿論仕事の関係で東京から来る人もいますが、むしろそれ以外に、近くの農家の人だとか商売をやっている人だとか、普通に東京にはない人だとか会えないような人たちと日常的に接しているわけですから、かえっておもしろいという刺激が大きいよね。

東京の方では今わざわざ、異業種の人と会おうとか言っていて、ネットワークを作ったりしているわけですから。

そういう意味では、都会の人の方が人と会うチャンスに恵まれているというのは確かに事実ではあるけれども、あまり過大評価しない方がいい。ただ地方は地方で、人々が互いに出会える場所づくり、環境づくりをしなければいけません。

農業を楽しむ

農家の人あるいは農家で育った人というのは大抵、子供の時に手伝わされてなにか厭な思いをした

り、親から「農業だけはやるんじゃない」とか「こんな合わない商売はない」とか言われているものだから、最初からイメージが悪いので、農業をやろうと思わないのです。

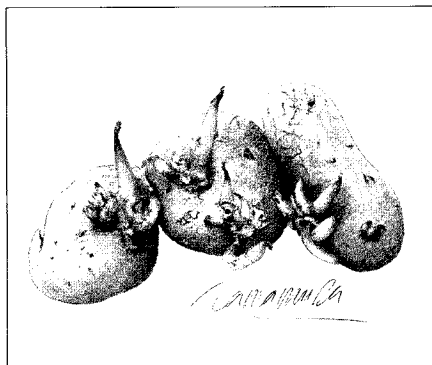
むしろ、体験や経験のない人の方がおもしろがってやる部分がありますね。

ぼくも大変ですけど、おもしろいと感じています。もちろん収入的には、原稿を書いたり他の仕事をしたりしないと、農業だけでは赤字ですけど。

ぶどうの他にも野菜やハーブをやっている、手伝ってくれる人も増えてきましたが、春から秋にかけては、エネルギーとしては農業が一番使っていますね。

絵も楽しんで

絵も描いているんですよ。自分



で作った野菜や花がモデルですから、描きたいと思えばすぐ描けます。

絵を描いて一番気持ちがいいのは、何事も忘れて、あきれない花だなどと思いがら好きなように描いている時ですね。

楽しく時間を過ごせた時は結果として、いい作品ができていますという場合が多いですね。苦しんで作ったものにあんまりいいものはないですね、わりとね。

ただ日本人でどうしても、これ苦しんで十年かけてやりましたと言っていると、凄いなと思つてね。三分で描きましたと言つて馬鹿にされるけど、三分で描こうと十年で描こうと、いいものはいいし、悪いものは悪いんです。

まず自分が楽しむこと

苦しんだ結果、何かいいものを見つけてよくなればそれはいいんですけど、かといって、必ず苦しまなければならないというものでもないですね。

まず自分が楽しむことですね。楽しさが相手に伝わってくるようなものがやっぱり、いい作品なんだと思います。

まず自分が楽しまなきゃ、相手も楽しませることができませんから。

(談)

いつも新しいものに挑戦

田 浅川良喜 (80)



ビニールハウスの仕事場で

手まり作り

仲間と会うのが 楽しい

中 武井寿子 (75)

大滝先生はじめ県小学校時代の同級生を中心に六名程のグループで月三回習っているそうです。気心の知れた友だちとおしゃべりできるのが何よりの楽しみとのこと。茶の間のガラスケースには多くの作品が並び、鶴や桜をイメージしたもののや昔ながらの模様、配色の美しさが目を引きました。手まりを作り始めれば夢中になり時の経つのも忘れてしまうそうです。また、武井さんは十数年来、公

ひだまり

した。

浅川さんが本格的にわら細工を始めたのは、農業の第一線から手を引いた五年程前から。作るのには、鶴・孔雀・宝船・願かけ用の大わらじ・しめ飾り・わら馬・わらぞうりなど。これらはすべて、浅川さんの創意工夫によって生み出されたものばかりで、「大わらじは、善光寺に御参りしたときによく見てきてそれを参考にして作りました」とのことです。「みなさんへ上げたときに喜んでいただけるのが一番の楽しみです」と浅川さんは、ビニールハウスを仕事場に、今日も新しい作品に挑戦しています。



たくさんの手まりを前に

第四回東部町短詩型文学祭 素直に自分の思いを詠んで

町外からの応募も増加

四回目を迎えた東部町短詩型文学祭には、町内外から予想を上回る四百九十点の作品の応募がありました。

日常生活の中で心に残ったことを、自分の言葉で素直に詠んだ作品が多く、特に、小・中・高生の若々しく新鮮な感性には目をみはるものがありました。

俳句の部

◇町長賞

柿紅葉子に頼らずに生きたかり

(丸子町) 田中 純子

◇教育委員会賞

鯛雲切手逆さに父の文

(常田) 三浦 雅子

◇公民館長賞

片寄りし目鼻の童画秋灯下

(真田町) 小山 忠治

◇文化協会賞

対岸は稲田明かりに暮れ残る

(常田) 小林 ちせ

◇町長賞

新婚の子ら発ちし庭に風渡り

金木屋の香りはこび来

(加沢) 井澤志津江

◇教育委員会賞

水の翳まとふがごとし漉き上げて

簀より離るる紙の白さは

(日向ガ丘) 宇井 充子

◇公民館長賞

遠火花はじける空を望みつつ

庭にごさ敷き冷や麦を食む

(田中) 柳沢 菊子

◇文化協会賞

早魃に枯れ初めし茄子に灌水し

口笛吹きつつ夫は帰り来

(本海野) 石和 節子

川柳の部

◇町長賞

懺悔する心が神を呼び戻す

(海善寺) 福島 友子

◇教育委員会賞

未知数を秘めて少年脱皮する

(東町) 大日向紋子

◇公民館長賞

傷心へ老母の素朴な手打ちそば

(海善寺) 五十嵐茂子

◇文化協会賞

お互いの傷かばい合い金婚譜

(海善寺) 山岸婦佐代

文化行政協力感謝状をいただいて

ちぎり絵 柳沢はまよ

ほんの些細なきっかけで始めたちぎり絵ですが、山野を歩き、草木を採集し、その草木で出せる色の美しさに心を惹かれ、十五年の歳月が過ぎた今、絵に対する製作の難しさと奥深さを痛感しております。

これからも受講生の方々とともに研究を重ね、今までより良い作品ができるよう努力したいと考えております。

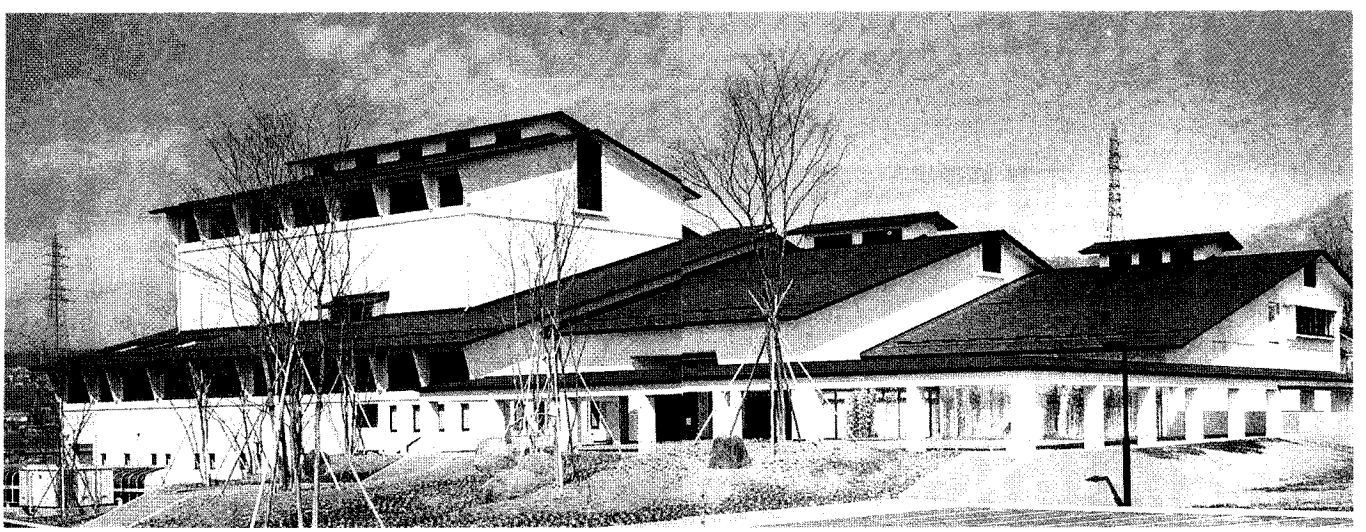
生け花

寺島まさる

私の先生は、「花をいけてそれが自分と違うものができたら困るのです。作品はその人の縮図なのです」といつも言っておられます。

ただ花の美しさに頼っていたら、そこからは自分というものが何も生まれてこないと思います。受講生にも自分の個性にあった作品を作りましょう、物語のある作品を作りましょうと言いつづけてきました。

いつの日か自分の満足のいく作品ができることを夢見て、今後も精進していきたいと思っております。



サントラスホールにようこそ

あなたをすてきな
スポーツへ

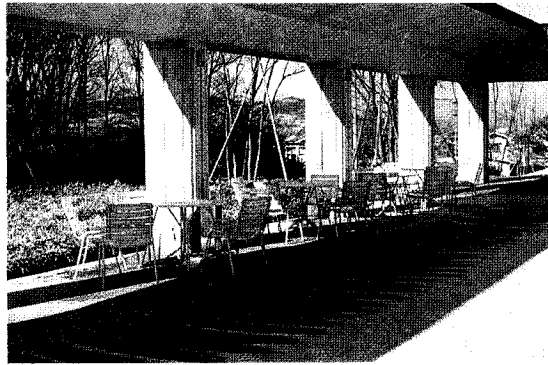
東部町文化会館が「サントラスホール」の愛称の下に、平成三年三月二日にオープンしてからはや、開館五周年を迎えました。町内はもとより町外の皆さんにも大いに活用していただいで、優れた文化の発信基地として、また、学習の成果の発表の場として大きな役割を果たしています。

あなたは、サントラスホールのことをよくご存知ですか。

今日はあなたを、おしゃれな気分を楽しめるすてきなスポットへご案内いたします。



エントランスホールを飾る
丸山晚霞『雪の日』



憩

風と光の中で

四季折々の自然を楽しむながら、おしゃべりをしたり本を読んだり……はいかがでしょうか。

南側玄関手前の廻廊に、白いテーブルと椅子（二十人分）のスペースができました。

飲み物などは、会館内の喫茶室



大勢の皆さんに、お気軽に、楽しんでご利用いただけるサントラスホールを目指しています。

よいアイデアがありましたら、どうぞお聞かせください。

北側玄関入ってすぐ右手、エントランスホールの北の方に、観葉植物などで囲まれたコーナーがあります。

これは、町内外の来館者から、「ちょっとした打ち合わせや待ち合わせをするスペースがほしい」などの要望があって実現したものです。新聞なども備えてありますのでご利用ください。

エントランスホールで

「幻彩夢」からの出前もOKです。

春は若葉や桜、夏は青葉や蝉時雨、秋は紅葉や落葉の音、冬は雪の降る音などがお楽しみいただけます。

いつでもご自由どうぞ。



喫茶室「幻彩夢」

味

軽食喫茶「幻彩夢」

〈営業時間〉開館日の
10:30～15:30

60年代から80年代まで、街にはたくさんの喫茶店がありました。そこには人々が集まり、一杯のコーヒーや紅茶で思い思いの時を過ごしていました。一人で本を読みながら…。時の経つのも忘れて友達と話をしながら…。そんな中に、日常的な文化があったと思います。

「幻彩夢」では、心を込めてコーヒーを落とし、麦の香り高いパンを焼き、手作りのケーキやムースを用意して、皆さんのおいでをお待ちしています。

トピックス

文化会館展示室に 絵などの常設展二示を

美術部会長 山辺甲子男

サンテラスホール展示室を

いつも何かの展示会が行われて
いる楽しい場所にした

こんな願いから美術会員六十名



の内の半数の
会員が、今ま
でに作成した
ものの中から
最も気に入っ
ている作品一
点を選んで、
文化会館に預
け、自由に展
示してもらっ
た。また、高
速道路建設や圃
場整備などによ
って東部町の景
色が変わってき
ています。今
の情景を絵に残
し、「東部町百景
展」として平成
八年に展示会を
開催する予定が
ありますので、
そのための活動
に取り組んでい
ます。文化会館
やお近くにお
越しの折は、ど
うぞ展示室にお
立ち寄りくだ
さい。

活動報告

写団SFC

「人と自然」

七月十九日(水)

～三十日(日)

文化会館

華洋会(彫刻)

九月十八日(月)

～二十四日(日)

中央公民館

東部町音楽祭

十月十二日(日)

手まり愛好会

十二月十一日(月)～十六日(日)

中央公民館

第四回生涯学習まちづくり

サンテラスとうぶ女性プラン

策定記念町民のつどい

二月十一日(日)

文化会館

第四回邦楽発表会

二月十八日(日)

文化会館

第十七回民謡発表会

二月二十五日(日)

文化会館

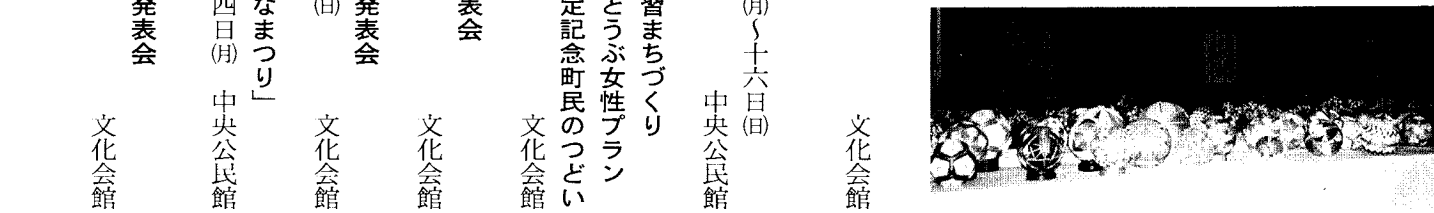
人形部会「ひなまつり」

三月二日(土)～四日(月)

中央公民館

第十七回舞踊発表会

三月十日(日)



文化協会役員研修旅行

山と湖と風の織りなす文化を訪ねて

諏訪市・下諏訪町方面へ

旅日和の九月二十九日、諏訪市と下諏訪町方面への文化協会役員研修旅行が行われました。

主な目的は、諏訪湖畔に建つ美術館・博物館・文学館などの見学です。

和田峠では、早くも紅葉が始まっています。峠を越えながら、春原社会教育指導員より島木赤彦についての話を聞いて、まずはサンリツ服部美術館へ。

この美術館は、「水辺より湧き上がる雲」をイメージして設計されたとのこと。諏訪の風景の中によく溶け込んでいました。

折しも、「桃山・江戸時代の茶陶展」が開催されており、本阿弥光悦作「白楽茶碗 銘 不二山」(国宝)には参加者一同、しみじみと見入りました。

ここから湖畔道路を北へ行くところなくして、諏訪湖博物館・赤彦記念館があります。

ここが下駄スケート発祥の地とすることで、庭には着物姿の子供のスケートの像が建っています。

諏訪湖博物館には、諏訪に住む人々の生活や心の支えとなってきた諏訪湖に関する数々の資料が展

示されています。

島木赤彦記念館では、教育者・歌人・童謡作家として理想と現実のはざままで揺れ動きつつ、自己の探究へと向かった赤彦のすがたを、数多くの資料から知ることが出来ます。

諏訪湖とそれを取り巻く山々と織りなす美しい自然や冬の厳しい寒さなどから生まれた層の厚い諏訪の文化を知ると共に、私達の東部町にもそれに優るとも劣らない文化があることに思いを馳せながら、諏訪湖を後にしました。



諏訪湖博物館・赤彦記念館前で

インフォメーション

伊勢正三コンサート

三月二十七日(水) 午後六時半

文化会館サンテラスホール

第二回東部町の上芸家展

三月十六日(土)～二十四日(日)

午前十時～午後六時

文化会館の使用について

○申請者が直接ご来館ください。

○印鑑をご持参ください。

○受付時間 午前九時～午後五時

・日曜日、月曜日、祝日、土曜日、

休館日は受付をしません。

○受付期間 ホール・展示室は、

使用日の前一年に当たる日の属

する月の初日から使用日の一月

前まで。

○休館日 十二月十八日～一月四日

編集を終えて

久しぶりに、こういう「仕事」

をしてみて、いや～肩が凝った。

以前ならすらすら書けた文字が

出てこない。気にもとめなかった

送り仮名にペンがとまる…。間違

いも多いかと思いましたがご容赦を。

グループ訪問で会員の皆さんと

同じ空気の中で同じ体験をした。

とにかく関係方面よりの貴重な

ご寄稿、ご支援でやっと発行に漕

ぎ着けた。心より感謝申し上げます。

(佐藤)